まえがき

「免状花」「卒業花」とふ三月の島山に咲くアオモジの花

「一〇〇号記念　爽樹合同歌集　二〇〇五年（平成一七年七月二〇日）」に掲載されている母の歌の一つです。長男の私は昭和二十五年の生まれですが、ふるさとの長崎県松浦市福島町（旧北松浦郡福島町）の島内の子供たちは、「卒業花」と呼んでいたと思います。雑木林の伐採跡地に最も早く成長する雑木の一種で、派手さはありませんが、花が少ない卒業式の季節にふるさとの島の山には黄色の花が目立ちます。東京で若い時を過ごした母には、少々珍しかったと思います。

母、木寺良子は一九二七年（昭和二年）東京で生まれ、一九四四年（昭和一九年）の夏、疎開で父・小川政平の郷里であった福島町へ移り住みました。その後、私の父となる木寺諭吉と結婚、三人の男児（佐和記、知記、昌記）を生み、育て、二〇一八年（平成三十年）一〇月に九十一歳の生涯を終えました。母の趣味の一つが短歌で、時につけ詠んだものを福島町文化協会の「文教いろは」、「合同歌集　つばき」、「爽樹合同歌集」などに掲載させていただいていました。お陰様で、その短歌を通じて、母の思いを後年になってからですが知ることができます。家族の写真とともに紹介させていただきます。